特集

尚絅大学生によるレポート 7

学生が考える「選挙」と「政治」

「普通」の学生の実際って？

今回は学生に「選挙と政治」に関する聞き取りをしました。

選挙権年齢が十八歳に引き下げられました。若者の政治無関心といわれますが、学生と議論を深めると、根本は「知らないこと」が影響しているように思います。

興味はあっても無知のままで選挙に行くのが怖い、という学生もいました。どの候補がどのような主張をしているのか、がよく分からないのです。選挙が重要なことは頭では理解していても、いざとなると知識が不足しているので、投票所が遠いのです。この点は大学でもできることがあるのではないかと感じています。

以下、そうした「普通」の学生の実際についての記事を掲載します。（文化言語学部准教授北口）

「普通」の学生①

私は選挙に対して堅苦しいイメージを持っています。友人とも、選挙の話となると何となく身構えてしまいます。

私はつい最近まで、顔も名前もあまり知らない候補者が演説をする様子をテレビで見る、そんな場面でしか選挙について考えたことはありませんでした。なぜなら、自分に関係ないと思っていたからです。

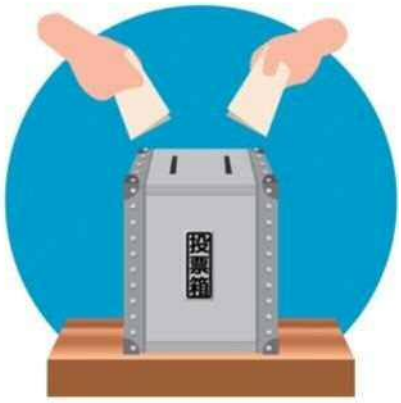
しかし、今年二十歳になり、また有権者が十八歳以上になったこともあって少しずつ選挙に関心を持ち始めました。私は先の参議院議員選挙の際、新聞などを使って候補者のマニフェストに目を通してみました。その時はなんだか少し大人になったような気がしました。

ただ、自分の一票がどれほどの力を持つのか、マニフェストは本当に実現可能で私達に利益があるのか、疑問を持ちました。私自身の知識不足もありますが、選挙と私達若者には取り払うべき壁があるのでは、と感じました。

例えば、地域の活性化について、政治家の方に現地を訪れ、たくさんの人たちと直接関わっていただきたいです。若者も含めて個人の生の声を取り入れて欲しいと思うからです。

そうしていただくことで、私達の政治への関心は増し、投票にも行きたいと思うようになります。ルールや規則ではなく、互いの心と心でつながるような、そんな政治をしていただきたいです。

（文化言語学部二年川原）



「普通」の学生②

投票に行かない若者はよく分からないことが多すぎるのではないかと思います。この「分からない」ということが投票から遠ざけていると考え、私なりの改善策を二つあげます。

一つ目は、出馬した議員の情報をより分かりやすく示すことです。例えば、出馬した議員一人ひとりの名前、党、マニフェストなどの情報をまとめて、ＳＮＳなどを活用することです。

二つ目は、若者向けの政策を増やすことです。若者が投票に行かないのは、自分たちには関係がないものだという思いがあるからです。そこで、自分たち（若者）の将来に関わるものや若者の目線の政策を取り入れることができれば良いのではないかと思います。

私も将来を担う若者の一人として積極的に政治について学び、選挙に参加したいと思います。

（文化言語学部二年直塚）